



○りんご作業 (6/15~7/15)

管内のりんごの肥大状況は、6月1日現在でふじが16.9ミリ(管内平均)と昨年より3日程度早い生育となっています。

今後は、高品質・大玉果実生産と来年の花芽を充実させるため適正着果に努めて下さい。

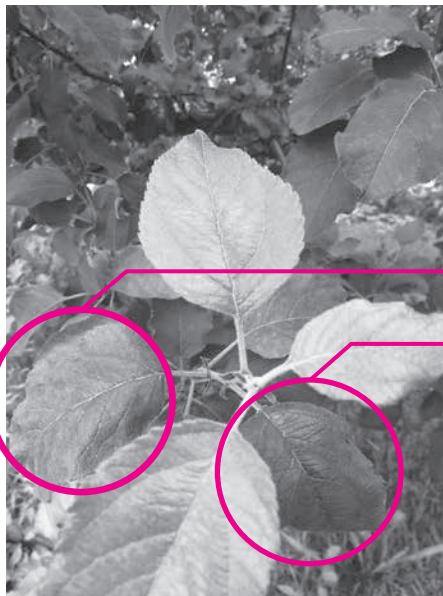
管内のりんご肥大状況 (6月1日調査)

	湯 口	紙 漕 沢	相 馬	平 均	昨 年	平 年
ふ じ	18.4	16.9	15.4	16.9	14.8	12.7
王 林	21.1	19.2	18.9	19.7	17.6	14.8
つがる	19.4	17.6	19.1	18.7	17.3	14.2

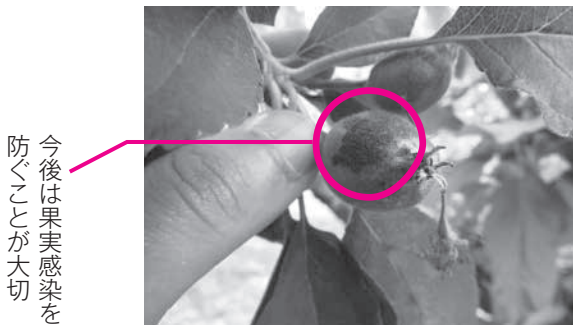
※単位は (mm) 平年値は過去10年間の平均値

◎黒星病に注意しましょう

黒星病の発生が広く確認されており、6月5日現在、新梢の先端から5・6枚目を中心に被害葉が見られます。これは、5月18日の強い降雨と強風によって感染したものと考えられます。黒星病の生体は気温が25℃以上になると動きが停滞すると言われていますが、低温で降雨がある場合は胞子が飛散されるため注意が必要です。黒星病の被害葉・被害果は菌密



5月18日に感染したと思われる被害葉



今後は果実感染を防ぐことが大切

○水稲について

苗の活着後は、平均気温が高い時は浅水にして分けつを促進し、逆に低い時は深水にして低温障害の発生を防ぎましょう。なお、水の掛け流しはしないようにしてください。

度低減のため摘み取り、適正に処分して下さい。今後の防除ポイント、風が強い日の薬剤散布はできる限り避けて下さい。また、散布ムラを少なくするため適正な散布量を守り、降雨がある場合は雨前防除に努めて下さい。

散布計画 りんご病害虫防除暦 (第8回目~9回目)

回数	散布量	散布時期	基準薬剤	希釈倍数	備 考
8	500㍓	7月上旬	キノドー80 又はオキシラン イカズチWDG ウララ カルシウム剤	1,200倍 500倍 1,500倍 4,000倍	○モモシンクイガの防除剤を毎回使用。ただし、ピレスロイド剤を使用した場合は次回省略できる。
9	500㍓	7月中旬	チオノック ダニコング コルト カルシウム剤	500倍 2,000倍 6,000倍	○高温・多湿が続く場合には斑落病に注意する。 ○褐斑病の発生が懸念される場合はトップジンM (水) 1,500倍を加用。 ○ダニ剤は園地の発生状況に合わせて使用する。